

(11) 九州



九州地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費はサービス支出を中心に弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

前回からの主要変更点

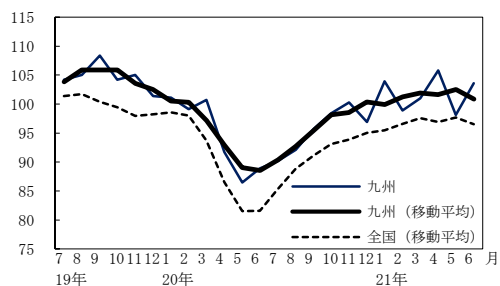
	前回（令和3年6月）	今回（令和3年8月）	
個人消費	このところサービス支出を中心に弱い動きとなっている	サービス支出を中心に弱い動きとなっている	→
雇用情勢	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している	↑

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直している。

4－6月期の鉱工業生産は、輸送機械は駆動伝導・操縦装置部品等が増加したこと、電気・情報通信機械は電気計測器等が増加したこと等により、前期比1.2%増となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値ウェイト	生産				
		1-3月期	4-6月期	4月	5月	6月
電子部品・デバイス	13.6	▲1.9	▲6.4	5.4	▲11.4	8.5
輸送機械	13.5	0.6	6.1	18.9	▲25.5	20.6
食料品	12.2	0.4	▲1.0	0.0	0.3	▲0.7
汎用・生産用・業務用機械	12.2	17.0	▲1.2	7.1	▲5.3	▲2.2
化学・石油石炭製品	10.0	3.8	3.8	▲1.4	4.1	1.5
鉱工業	100.0	2.8	1.2	4.8	▲7.3	5.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4－6月期、6月は速報値。

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

2. 個人消費の動向

個人消費はサービス支出を中心に弱い動きとなっている。

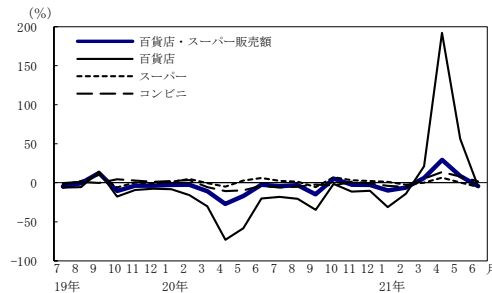
(1) 地域別消費総合指数（RDEI（消費））

4－6月期は前期比2.3%増となった。月別にみると、4月は前月比1.0%増、5月は同0.1%減、6月は同1.5%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4－6月期は前年同期比9.5%増（前々年同期比7.3%減）となった。月別にみると、4月は前年同月比29.4%増、5月は同8.8%増、6月は同4.3%減となった。百貨店は、4－6月期は前年同期比47.4%増となった。スーパーは、4－6月期は同0.4%増となった。

百貨店・スーパー販売額等
（店舗調整前、前年同月比）



	2021年4-6月	2021年4月	5月	6月
RDEI（消費*1）	2.3	1.0	▲0.1	1.5
百貨店・スーパー*2	9.5	29.4	8.8	▲4.3
百貨店*3	47.4	192.1	56.0	▲4.3
スーパー*3	0.4	6.6	0.5	▲5.2
コンビニ*3	7.6	13.5	7.9	1.9
乗用車*4	23.0	31.4	52.1	▲1.1
（季節調整値）*4	▲6.8	1.9	▲8.4	▲10.0

（備考）1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

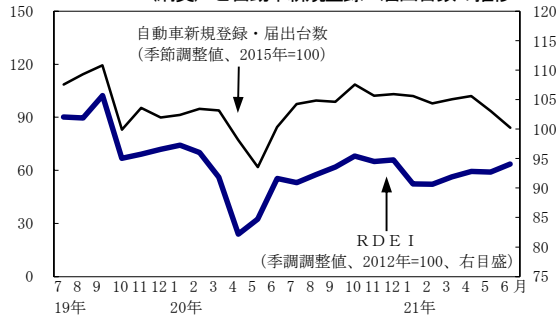
3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店、スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。

コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

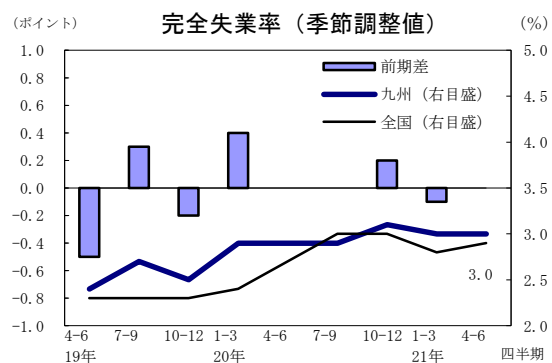
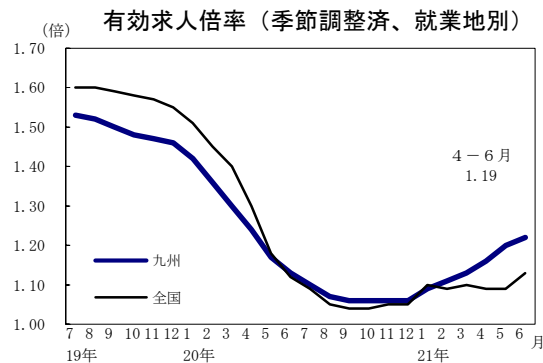
RDEI（消費）と自動車新規登録・届出台数の推移



3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。



（備考）内閣府にて季節調整。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年7月調査) 景気判断理由の概要

11. 九州

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・ 巣籠り需要の傾向は変わらないが、夏休みに入り、イベント開催時の来客は徐々に増えつつあることから、イベント待望感はかなりあると考えられる。しかし、販売量は前年に及ばず、売上高の増加には至っていない(スーパー)
			・ 今月の売上は、順調に推移している。夏に入り天候も良く、来店客も多くなり、特に飲料水やアイスクリームの売上が大きく上昇している。前月までの厳しい状況から一転して良くなりつつある(コンビニ)
			・ ワクチン接種が進み来店客は増えてきたが、外出自粛で新しい服を必要としないため、購入せずに店を出る人が多い(衣料品専門店)
	企業 動向 関連		・ 夏季休暇シーズンを迎え、飲食店や歓楽街の入出には増加の兆しがみられる。また、県独自の観光事業の施策により、宿泊施設の稼働率にも期待が高まっているが、活況状況には施設のグレードによるばらつきもみられる。住宅部門ではマンションの需要が堅調である(金融業)
			・ これまでの半導体部品の遅れを徐々に取り戻すために、全体的に増産体制になっており、どこもフル稼働状態である(その他製造業[産業廃棄物処理業]) ・ 受注関係も若干下火になっており、Web関係でも前年と比較すると落ち込んでいる。東京オリンピックで休日となり、窯も休止ということで、売上の減少がかなりひどい状況である(窯業・土石製品製造業)
雇用 関連		・ まん延防止等重点措置で、求人の動きはかなり停滞していた。一時解除された3月下旬から4月初旬は一気に回復したが、その後すぐに冷え込んでしまった。7月に入り、解除後の求人の動きは活発になっているが、人の動きはさほど感じられない(求人情報誌製作会社)	
		・ 求職者が希望する中心地の事務案件は乏しく、派遣求人数も新型コロナウイルス関連の求人以外は厳しい状況が続いている(人材派遣会社)	
	その他の特徴 コメント		： 主要取引先からの増産対応要請があり、更なる受注増加が見込まれる(電気機械器具製造業) ： 新型コロナウイルスの感染拡大で、再び人の流れが悪くなっており、売上に影響している(都市型ホテル)
先行き	家計 動向 関連		・ 今月は多少良くなっても、2~3か月先もこのまま継続されるとは考えられず、新型コロナウイルスに対して、恐怖心が拭き切れない客が多い(美容室)
			・ ワクチン接種が広まり、外出への抵抗感が薄れ、消費マインドが少しずつ上昇すると予想している(百貨店)
	企業 動向 関連		・ 大型案件や確実な案件情報は来期以降しかめどが立っておらず、まだまだ厳しい状況が予想される。また、新型コロナウイルス第5波の感染拡大の規模や沈静するタイミングにも大きく左右される(家具製造業)
			・ 半導体や鋼材等の供給リスクは引き続きあるが、当初計画以上の生産台数が見込まれており繁忙が続く(輸送用機械器具製造業)
	雇用 関連		・ 採用環境の本格的な好転のためには、多人数を採用するサービス業の経済活動が活発にならないと難しい。現在、ワクチン接種が進んでいるものの、短期の復活は厳しいと考える(民間職業紹介機関)
	その他の特徴 コメント		： 高齢者中心にワクチン接種の普及もあり、期待している(商店街) ： 東京オリンピックや夏休みも終わり、新型コロナウイルス感染が拡大し、再び自粛や消費の冷え込みが予想される(一般レストラン)

(D I) 現状・先行き判断D I (九州)の推移(季節調整値)

